

## 「四季」 37 蚕

学名 Bombyx mori

昆虫綱鱗翅目カイコガ科カイコ属に属するガ  
「飼<sup>か</sup>い蚕<sup>こ</sup>」の意から名が付いた

### 郷土資料から見た「蚕<sup>かいこ</sup>」のあれこれ

かつては柏崎でも養蚕が行われ、6月は「はるご」とも呼ばれる春蚕<sup>しゅんざん</sup>の繭<sup>まゆ</sup>が出荷される時期であった。

蚕は絹を得るため、古くから飼育され完全に家畜化された昆虫で、成虫は飛行も食物摂取もできないまでに退化している。飼育時期によって春蚕<sup>かさん</sup>・夏蚕<sup>しゅうざん</sup>（なつご）・秋蚕<sup>しゅうざん</sup>（あきご）などと呼ばれる。

柏崎の養蚕は、明治の殖産政策によって急速に普及した。養蚕農家は山間部に多かったが、大和町<sup>こがいちょう</sup>が以前「養蚕町」という町名であったことから、養蚕が広く市内に普及していた事がうかがえる。これは現大和町が、明治初期に養蚕奨励のため開拓された町であったため名付けられたものである。

稲作農家の副収入源のひとつとなり、昭和42(1967)年には晩秋蚕の繭で「当地方空前の12,000万円の収入」(「柏崎編年史」)を得た養蚕業だったが、現在は行われておらず、小学校でも授業の一環として蚕を飼うこともなくなっている。

#### 参考資料

「鳥獣虫魚歳時記 春夏」	朝日新聞社編	2000	「柏崎市史」	市史編さん委員会編著	1987
「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「日本大百科全書」	小学館発行	1994
「カイコの絵本」	きうちまことへん	1999	「柏崎歳時記」	山田良平著	1957
「主業養蚕家への道」	新潟県柏崎市蚕業指導所編	1968	「柏崎編年史」	新沢佳大・前川禎治編	1970